

Tea Time

ティー・タイム

楽しい歳時記

お彼岸とお花見

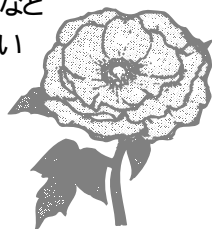


春は卒業・就職・転勤等、人の動きが活発になる季節です。冷たい風がやわらぐ一方、出会いや別れが、笑いや涙を誘う節目の時期でもあります。春の訪れは、とても日本らしい情感に溢れています。



お彼岸

昼と夜の長さが等しくなるのが「春分の日」で、毎年、3月21日頃。太陽が黄経ゼロの春分点を通り真東から昇って、真西に沈みます。この真西に太陽が沈むことから、仏教の西方浄土思想では、彼岸(仏教用語で向こう側、仏様の世界)を思いやる日とされました。この日を彼岸の中日とし、前後3日ずつ、計7日間を彼岸といいます。佛前供養、墓参りなど先祖供養の大事な期間とされています。おはぎをお供えしますが、春のお彼岸は牡丹餅(ぼたもち)、秋のお彼岸はお萩と、花にちなんで呼びわける地方もあります。



*ひと口メモ 春分

春分の日は「生物をたたえ、自然をいつくしむ日」。一方秋分の日は「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ日」と法律によって規定されています。

お花見

花見というと桜の花。花びらがチラチラと舞い落ちてくる樹の下で敷物に座って、酒を酌み交わし、弁当を食べ、歌や踊りに興じます。上巳の節句の厄除けの行事から出たものと思われます。落語の「長屋の花見」は貧乏長屋のハツアン、熊さんたちが家主に連れられて花見に行き、玉子焼きの代わりにタクワン、お酒の代わりに渋茶に酔ったふりをして花見を楽しみます。昔はお金がなくても共に花見を楽しみました。農村では田植えが始まる前に野や山に出て、共に飲食を楽しみます。桜の花には稲の神が宿り、桜の花が満開になると、秋には豊作が約束されている、といわれており、花見は豊作を期待する前祝いなのです。

*ひと口メモ 花ちらし

花の盛りの強い風をいいます。無情にも花を散らせたりします。低気圧が近づいたためですが、低気圧が去るとまた気温が逆戻りして低下するので風邪にご注意を。

MEMO

 富士火災海上保険株式会社

担当